有形文化財（考古資料）

55.　虚空蔵菩薩板碑　1基

■指定年月日　平成5年3月18日（1993）

■所　在　地　大谷町（角間）

■寸　　法　高26cm　幅16cm

■所　有　者　国造神社

固くて緻密な安山岩を割り切って作った板碑である。板碑というのは中世に盛んに作られた石の供養塔で、板石塔婆ともいう。

この板碑は、頂部を三角形にし、下部ほど板の厚味をまして角錐状になっている。下端が欠けているので、正確な大きさはわからないが、板碑としては小型の部類である。

上部中央には虚空蔵菩薩を現わす梵字（タラーク）が平彫りされ、その下方には次のような銘文が刻まれている。銘文の下の部分は板碑の欠損のため欠失している。

當寺開山総安
三百

（タラーク）奉誦無怖畏陀羅尼□
萬返
文明十五天

国造神社は大谷川上流の角間にある。もともと神仏習合に由来した虚空蔵菩薩を祀った神社であったことがわかる。虚空蔵菩薩は、鹿島郡中能登町にある石動山の主神伊須流岐比古神の本地仏である。この神社も碑文から山峯をめぐる石動山系の修験者によって文明15年（1483）に創始されたと考えられる。

神社の裏手に小さな洞のある断崖があり、修験者の聖地となっていたのであろう。この板碑と共に珠洲の修験道の遺跡として貴重なものである。